

今回の IGFにおける民間セクターからの 主なハイライト

Attendance Statistics

2,137 onsite participants, from 112 countries,
with an estimated number of 2,000 active participants online.

Onsite participants by stakeholder group

Civil Society	44%
Government	22%
Intergovernmental Org	4%
Private Sector	12%
Technical Community	10%
Media	8%

8つのサブテーマ に合計150を超えるセッション

- 「サイバーセキュリティと信頼」
- 「インターネット基盤リソース」
- 「オープン性」
- 「マルチステークホルダー間の連携促進」
- 「インターネットと人権」
- 「多様性の受容」
- 「インターネットエコノミー」
- 「新規テーマ」

ハイライト

IGFの有効性についてエンドース

他のステークホルダーからの表明同様に、IGFが「ガバナンスポリシーのあり方について多様な意見をステークホルダーの垣根を越えて交わすフレームワーク」として今後も継続していくことを歓迎する表明

UN 2030 SDG Agenda 関連インプット

WSIS+10 ヒアリングの場としてビジネスセクターからのインプット。
UN 2030 agendaのゴール達成に向けて、インターネットエコノミーの観点から社会と経済の発展に向けて、民間部門がICTによるイノベーションを牽引する役割りポテンシャルを強調（政府主導だけではなく）

CyberSecurity関連

近年IGFにおける重要テーマとして取り扱われるCyberSecurityに関し、
Budapest Convention on Cybercrime, OECD,などUN活動外に、既にプライベートセクターが活発な活動が進行中であることの認識を促すとともに、これらのアウトプットについてUNの活動においてリンクージュと活用していくことを提案